

交換留学生体験談作文

王コウショウ （台湾・国立台湾大学）

「時間は矢の如し」ということわざのように、時間が過ぎるのは本当にとてはやくて、いつの間にか一年間が過ぎ、私の留学生活はあっという間に終わりを迎えました。この一年間は、私の人生の中でも忘れられない一年間になると思います。

私は、台湾でもともと日本語を専攻として勉強しているので、一度日本にきて、自分が学んできたことを日本の生活の中で使いながら、日本の社会と文化を実際に体験してみたいとおもったのです。そして、交換留学を通して、私の夢が叶い、この一年間の中でたくさんの体験と刺激を感じました。

日本に来たばかりの時は、台湾と日本の生活環境は実はそんなに違わないし、生活上は特に慣れないことはなかったのですが、初めて長い間、自分の知らない社会と国で生活するのは、やはり少し不安があってプレッシャーも感じました。しかし、たくさん優しい人々に会い、台湾では体験できないことをして、私の留学生活もだんだん楽しくなりました。

今学期取った授業は、前学期と少し変えて、たいだい学部の授業を取りました。その中で特に印象に残ったのは、日本服飾論という授業でした。自分の専門ではないんですが、日本の平安時代の服飾とその流れについて知りまして、日本の服飾文化について触れることができました。また、台湾では取れなかった韓国語の授業もお茶の水で取ることができて、自分の第二言語（日本語）でさらにもう一つの外国語を学ぶのもおもしろかったです。また、中国語の翻訳と日本語原文を対照しながら研究する授業を取り、違う方角から自分の母国語を振り返ることで、自分の言語について知らなかったことが知ることができました。これも、ずっと台湾にいたら体験できないことだったと思います。これから来る人も、来学期もまだいる人も、できれば学部の授業をとってみたいと思います。難しいですが、もっと広い角度から知識を学ぶことができると思います。ちなみに、お茶大では教員の許可を得れば学部の授業を自由に取れるのが一つの特徴ですから、みなさんはこの機会を生かせばと思います。

今学期はまた一つ前学期と違う体験ができました。それは、飲食店のアルバイトです。最初は同じ台湾人の友達の紹介で軽い気持ちで入りましたが、実際にやってみるとかなり大変な仕事で、毎回店に入るたびにちゃんと同僚に挨拶しなければならないし、仕事もスピーディに、しかも、正確にやらなければなりません。とても忙しくてつらい思いも何度もしまして、接客の仕事はやはり自分に合わないと感じましたが、日本人のマナー重視の態度と、なんでも真面目に接する仕事のやり方についても知ることができ、これもひとつの勉強になったと思います。

授業とアルバイトのほかに、休みの時もいろいろなところに旅行にいきました。せっかく一年間日本にいますから、東京都内と近郊はもちろん、関西や中部地方などほかの道府県にもぜひいってみたいと思います。私は前学期は関西地方へいき、京都の神社と寺院、奈良の東大寺、大阪などのところで楽しいひとときを過ごしました

が、今学期はゴールデンウィークに、名古屋や北陸地方へもいき、綺麗な景色を見ただけではなくいろいろな国からきた旅行者と地元の住民と交流できて、すばらしい体験でした。また、自分でいろいろな旅行計画をたてたことで、日本の交通、地理についてももっと知ることができてよかったですと思います。交通手段は、夜行バスがおすすめで、時間はかかりますが、一晩の宿泊を心配なしでいけます。



日本にいる間は、授業、アルバイト、または旅行を通して、一つの国の文化、社会、日本人の国民性について知ることができまして、本当に忘れがたい思い出になりました。ここで出会ったすべてに、本当に感謝の気持ちが語り切れないと思います。これから来る人にも、留学生生活を大切にして、精一杯たくさんの方に挑戦してくださいと伝えたいです。

